























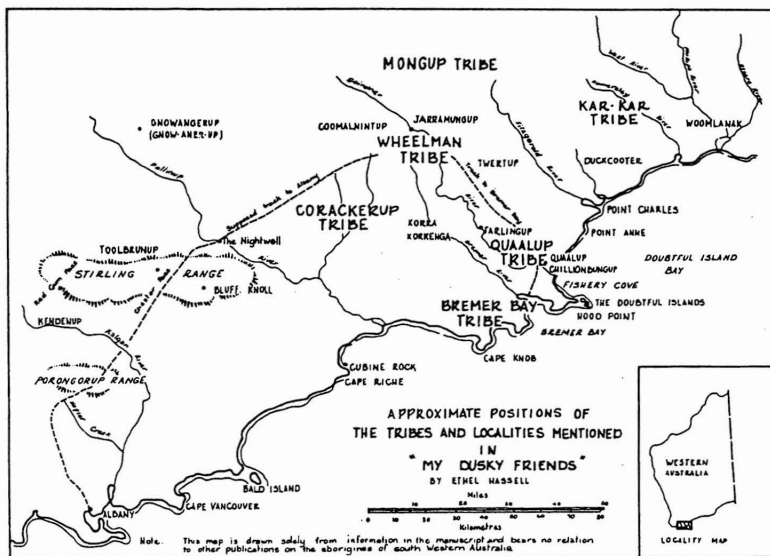


眠っているし、明るい昼間や月夜は安全だからだ。彼女は呼び続けて子ども達を誘惑する。すると子どもらは日が没するまで呼び声を頼りに進んでいく。そしていつもその声は、日没前に山々や深い峡谷など影が映らない所に潜む。そうしてバルイエットは子どもを腕に抱き、冷たい胸に押しつけて柔らかく熱っぽく抱擁する。子どもは声を上げずに死んでゆくから、その体が冷たく固くなつて初めて、バルイエットは腕の中の子が死んだと分かるのだ。するとバルイエットは骸を落とし、さめざめと泣き、風のように悲鳴を上げながら山々の奥へ入りこみ、母親は岩場に死んでいるわが子を見つけることになる。子どもは、キャンプの焚き火の前で静かに寝入ったかのように見える。時にはバルイエットは、少女達をそのかしてついでにこさせる。彼女の孤独はすさまじいものだからだ。少女達がついていくと、バルイエットは柔らかな霧のような抱擁に包み込む。運良く逃れて峡谷を下ることができたとしても、後で必ず具合が悪くなり、少女達がバルイエットの抱擁からすっかり快復することはない。

## 7 地図

西オーストラリア州南端の地図が、本書にある。バルイエットの Wheelman 部族のテリトリーが、ハッセルの羊牧場の所在地と重なることがわかる。Yilgar が少

## MY DUSKY FRIENDS by Ethel Hassell 1975



女の時に白人と遭遇したブレマー湾、のちにハッセル夫妻が移り住んだオルバニーの位置が確認できる。